

市内の小・中学校で英語を教えているA.L.T. (外国語指導助手)の皆さんが、久慈で生活して感じてきたことを紹介するコーナーです。

My life in Kuji



ダコタ・ディベイツ さん
 インディアナ州・24歳 / 夏井小、久喜小、小袖小、宇部中、山形地区の小中学校を担当

子どものころから読書が大好き!

最近、日本国内でも旅行をするのが難しいので、読書の時間が増えました。今回は、私のお気に入りの本を紹介します。

①海辺のカフカ / 村上春樹

私にとって初めての日本人作家の作品で、大好きな本の一つです。田村カフカとナカタという二人の登場人物が猫と人が会話を交わし、空から魚が降ってくるという形を超えた現実にあなたを引き込みます。二人はそれぞれの運命から逃れるための旅に出かけ、おそらくお互いを救うことになるでしょう。

②アルケミスト - 夢を旅した少年 / パウロ・コエーリョ

サンティアゴという羊飼いの少年に導かれ、スペインからエジプトへと旋風のような旅が巻き起こります。少年が本当の宝物は自身の中にあり、その心に身を傾けることほど重要な事はなにもないのだと学ぶ姿から、シンプルさと賢明さが織り交ぜられてひとつひとつになっていくことに気付かされます。続きはまた次のコラムで紹介いたしますね。

市民センターだより



大川目市民センター
 ☎55-3250

**大川目市民センター事業紹介
 小さな産直・大川目**

大川目市民センターでは、大川目町まちづくり協議会と共催で、地域コミュニティの醸成・地産地消を目的に令和2年度から「小さな産直・大川目」と題し、イベントを開催しています。

令和3年度は、7月11日、8月8日、10月24日、11月14日、12月12日の計5回開催しました。回数を増すたびに出品物や来場者が増え、令和3年度最後の「小さな産直・大川目」では、令和2年の第1回に比べ、3.4倍と過去最高の来場者数を記録しました。

センター事業として計画した「駄菓子屋体験教室」では、大川目小学校5～6年生の有志児童9人が出店。来場した子どもたちも、お小遣いをにぎりしめ、悩みながらも楽しそうに買い物。老若男女問わず大いににぎわいました。

来場者からは「来年度も続けて欲しい」などの意見が多く、今後も継続してより良い「小さな産直・大川目」を開催していけるよう、大川目町まちづくり協議会と協力していきます。

協力隊通信

細川 大介 さん
 (ほそかわ・だいすけ 31歳)
 胆沢郡金ヶ崎町出身。産業建設課で、短角牛の飼育技術の習得、魅力発信に取り組む。



前進あるのみ。どんどんチャレンジしていきます

令和3年10月1日に着任した地域おこし協力隊の細川です。まだ数カ月しか経っていませんが、機械類の免許も取得し、仕事の幅が大きく広がりました。本年度は機械類に限らず、必要な資格だと思うものにはどんどんチャレンジしていきます。また、周辺農家さんとも一緒に仕事ができる機会も増えました。仕事だけでなく、山形町の歴史、料理、さまざまな点で勉強になることがたくさんあると感じています。それらを踏まえ、より消費者の皆さんの笑顔と牛の笑顔がたくさん生み出せるように、今後も邁進して参ります。

どちらかというと畜産業は風当たりが強い業界ではあるかも知れませんが、勉強すればする程、牛飼いと関われば関わる程、奥が深くかっこいい職業だと私は思います。今後少しでも多くの若手がこの業界に興味を持って頂けるように、現在私に関わってくださっている皆さんと協力し、発信して行きたいと思っております。

●地域おこし協力隊…移住定住促進を目的に、都市部からの移住者に対して市が委嘱。カフェを中心とした地域の活性化、新規漁業者の確保や水産物の高付加価値化への取り組み、農泊事業の実践と推進、地域資源の商品開発・販路拡大PRなどを行います。



認定証を掲げる刈間澤自治会長(右)と谷地青年会長(左)

Name 荷軽部自治会

刈間澤由広 自治会長 (60)
 谷地大輔 青年会長 (36)

元気なコミュニティ特選団体とは

平成24年度から、岩手県知事が認定している、人口減少・少子高齢化にむき合い、地域力の強化に取り組む県内のモデルとなる団体。市では、これまでに13団体が認定されています。

きらり人輝く

地域力の強化に取り組み
 モデル団体に認定された自治会

自慢できる地区を目指して

本年度「元気なコミュニティ特選団体」として認定された荷軽部自治会。さまざまな団体と連携し行ってきた地域活動について、自治会長の刈間澤さんと青年会長の谷地さんから話を聞きました。

■これまでの活動について

昭和11年に会を結成以降、町内の清掃活動や草刈り、ガタゴンまつりなどの地域行事の参加、スポーツ交流会の企画運営などをしてきました。まめぶの伝承活動、教育旅行やグリーンツーリズムでの農泊の受け入れも、積極的に取り組んでいます。

本年度は、コロナ禍の中でも、感染症対策を徹底した上で、さまざまなイベントを開催。「青年会の炭火焼きそばが食べたい」という地域の皆さんの願いを叶えるため、テイクアウト販売の実施や、地区の子どもたちにプレゼントを配る「サンタが荷軽部にやってきた」というクリスマスイベントを開催したり、切れ目なく活動を行いました。

■活動を続けて良かったこと

昭和47年から、地区全戸に配布する「荷軽部タイムス」という地域新聞を発行。昨年度には200号を達成しました。この発行は、青年会と連携した取り組みなので、地域の若者たちが一緒に活動してくれていることがうれしいです。

■今後の抱負

これまでの活動を続けながら、より多くの人に荷軽部地区のことを知ってもらいたいです。荷軽部自治会は、地区の皆さんも、企画している自分たちも、楽しむことを第一に活動しています。これからもその気持ちを忘れずに、地域の皆さんと積極的にコミュニケーションを取りながら、住みやすく自慢できる地区を作っていけるよう頑張ります。

集まれ! 元気の輪

ひまわりの会

代表: 下坪 文子 さん
 活動場所: 長内市民センター ☎52-7400
 活動日: 毎月第1水曜日 13時~16時

ひとつひとつ丁寧に心を込めて縫います



和気あいあいとした笑顔の絶えないサークルです

ひまわりの会は、長内市民センターのつるし飾りをつくる事業がきっかけとなり立ち上がったサークルで、活動して2年目を迎えました。

つるし飾りは伝統工芸の一種で、江戸時代から作られているといわれています。取材した12月は先生からアドバイスを受けながら、干支にちなんだ寅や雪だるまを作製。同じ基本の型でも、綿の入れ方や仕上げの刺繍などでいろいろな表情を見せます。(※寅は1月1日号裏表紙に掲載) 作品は例年、2月の市民生涯学習のつどいや、やませ土風館のイベントなどで展示しています。